第 2014-24 号

恵みと真理のニュース

2014 年 6 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　時によって家庭を助けてくださり 全ての家族が教会を喜びで仕えるようにしている神様を賛美します。

私は学生ごろ友達をついて何回教会に行って礼拝を捧げました。イエス様の顔を夢見た時もありますが、イエス様を私の救い主で受け入れませんでした。青年の頃は偶像の形相を作る会社に就職して 6 年間働きました。それで世の中で楽しみと満足を求めながら暮らしました。
結婚の時期が過ぎて酷いストレスを受けました。結婚が私の思い通りに出来なくて名節で親戚が集まると結婚の話ばかりしました。親の思い通りにならなくて自分のおもうとおりにやるとよく親と意見が衝突しました。親は私の結婚のためお金をかけるまで巫女を招いて祭祀をしたり、お守りを財布の中に入れて身に着けるように強要しました。
ある日、出勤の時わたしの前に歩いている一人の姉妹を見て一目ぼれしました。その日会社で仕事をしていて 2 階に上がってみると彼女がそこで仕事をしていました。その日が彼女の初めの出勤の日でした。その時から彼女を愛する心が燃え積極的に言い寄りました。後で知ってみたら恵みと真理教会に通う聖徒でした。
私の真心と努力で彼女の心が徐々に開き始め 3 年間付き合って両家の顔合わせをしました。その場で彼女の姉が私に福音を伝えながらイエス様を信じ熱心に信仰生活をする事だけ丁寧に頼みました。私は結婚すると熱心に教会に通いますとその場で約束しました。結婚して子供を産み育ちながら妻は相変わらず熱心に教会で奉仕しました。一人の子を負んぶして一人の子は手を取って伝道しに通いました。しかし、私は妻と妻の姉の約束を無視して週末になると会社の同僚達と釣りで忙しかったです。
教会学効の教師として奉仕する妻が 3 ヶ月にかけて夏の聖書学校の準備をするうちに 7 歳になる長男が事故で足を骨折し病院に入院しました。すると私はその日に限って遅く帰って来た妻に子どもをよく守らないかと怒りました。その事後も教会生活を熱心にしている妻を 無視し迫害しました。それにも関わらず妻は神様が私達の家族を主が守ってくださるから“あなたも早くイエス様を信じて家族が天国に行かなければならない”と言い教会に通うことを願い泣き入れました。主日の朝早く教会のバスが来る一時間前から私に涙と鼻水を流しながら袂にすがりました。妻のそのような姿がかわいそうでした。結婚の前に妻と妻の家族の許可を得るため約束したことを思い出して申し訳ない心でした。そして月一回二回くらい家庭の平安のための心で教会に通い始めました。礼拝に参席して説教を聴き祝福を受けながら信仰が出来少しづつ信仰が成長する中に通った会社で大きい問題が出来て廃業する状況になりました。仕方なくあちこち新しい職場を探すあいだ妻の勧めで教会の知り合いを通してその方がする設備の仕事をするようになりました。その執事と共に働きながら教会中心、礼拝中心で生活する真実な姿に感動を受け私の信仰も変化されました。主日を徹底に守りさらに聖徒ため奉仕する信仰になりました。
指揮者の勧めで聖歌隊で奉仕しながら賛美で栄光を受け恵みを下さる神様の臨在をもっと深く感じるようになりました。主の愛を暖かく感じ人格的に主に出会う神霊な体験もしました。私は慢性的な腰痛で大きい苦しまれながらも正確な原因と病名もなかったので治療も受けませんでした。それで一ヶ月間期間を決めて祈る間、子どもをつれて妻と共に朝祈り会に参加して熱心に祈りました。そうする中にある日は朝祈りをするとき急に体が動けない状態になり、教会の知り合いの紹介で急いで捜した病院で正確な診断を受け手術を受けました。手術を受けて回復する間教会の教役者と教区の多くの聖徒が病院に訪ねてくださり祈ってくださって私には大きい慰めと力になりました。その時の神様の恵みで腰が治され再発しなくて今日まで健康です。
相変わらず“神様の国と義を求めながら”主の事に最善を尽くす妻を神様は喜んでくださり奇跡的な助けを与えて信じ求めたとおりに新しい家を買う祝福も受けました。私の親の救いのため私達の夫婦は 15 年間福音を伝えながら祈りました。神様の助けを求め祈りするときもう最後だと思い母の前で膝をまずきました。イエス様を信じて私と孫達のため祈りながら主のなかで平安な老年を生きるように涙で呼びかけました。ついに母は教会に行って決信しイエス様を救い主で受け入れました。次は妹と姉順に頑強に拒んだ父親まで椅子様を信じるようになりました。
“二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」（使徒言行録１６：３１）
ハレルヤ！私の家族すべてが救われ神様の御国の民になった事を考えれば考えるほど私達を択び自分の子どもにしてくださった神様の恵みと愛に限りなく感謝を捧げます。
今も足りない私に案手執事として立ててくださり聖霊充満の恵みと聖歌隊長の職分を与えてくださいました。主の前でもっと真面目で忠誠で行なうと神様が下さったことを信じ感謝しながら礼拝と奉仕の喜びで日々新たになります。また神様は二人の子供にも恵みを与えて人々から愛されています。二人も妻の信仰の影響で子どもの時から信仰を育って息子は中高等部で重い責任を持て奉仕しています。娘はまだ学生にも関わらず金曜礼拝の聖歌隊で一度も休まずに聖歌隊員であり副伴奏者として熱心に奉仕するように主はタレントをくださいました。二人の子供は成人になっても真実な神様の子供として主と教会を愛し受けたタレントでもっと神様を畏れ教会を仕えるように祈ります。
いつも私を離れなく苦難の中でも希望を下さり信仰でその希望を成し遂げてくださる神様を仰ぎ賛美します。私が行く所全てどこでも神様の愛と恵みを熱心に伝えます。そして私達の教会と当会長牧師の使役に一つの小麦になる事を願い職業を通して一千教会の開拓設立と百万聖徒のリバイバルの目標を成し遂げる事に参加し献身するように祈ります。
足りないものですがこの証を通して神様の前でもっと真面で忠誠な働き物として生きることを決心します。

[信仰コラム]　これは全部私を利することだ

″…あなたがたはわたしに子を失わせた。ヨセフはいなくなり、シメオンもいなくなった。今度はベニヤミンをも取り去る。これらはみなわたしの身にふりかかって来るのだ″(創世記　42:36)

人は自分が直面することになった事件や問題についてそろばんをします。その事が自分に損失と苦痛を与えるものであれば悪いことで、一方、自分に利益と楽しみをくれるのであれば良いことだと思っています。しかし当時には悪いことと考えたが、過ぎてしまえばいい事になる場合があり、当時は、良いことだと思ったのに後日には悪い結果をもたらす原因になることがあることを生きながら学ぶようになります。こうした教訓を物語る故事成語で’禍をてんじて福となす’と’塞翁が馬’があります。
キリスト人は修行をしたり、開眼しないも心に余裕を持って沈着に、すべてのことを対処することができます。神様に対する信頼で可能です。神様は公義と愛の属性を均等にしました。もし公義と判断している神様がいなければ不法と不義が横行するこの世界で善良で義人として生きようと努力する人々は希望がないのです。悪い者が旺盛するようになっても結局は敗北しになってしまいます。
神様は公義で審判されるだけでなく、人生を愛で面倒を見て抱いてくれます。誰でもイエス・キリストを信じればこそ救いを得るようにしました。神様に仕えて苦労したすべての仕事についてそして主に仕えて福音を伝播することによって受けた損失と苦しみに対して賞を予備してしてくれます。神様は善良で真実です。聖徒たちはこんな神様を信じて仕えるために何を会っても希望を持ち、心に余裕を失わず、生きていくことができます。ところで神様の選んだことと御召によって神様に仕える星図で神様のお話どおりに生きようとしながらも自身が直面することによって否定的になってがっかりする人がいくらかいます。これらは歳月が過ぎ、振り返って見るようになったら自分が愚かに行動したということを認識するようになることです。
イスラエル民族の族長ヤコブの生涯ついての記録でその教訓を得ることができます。ヤコブはとてもいらいらして神様が働いてるのを待ちながら歩調を合わせて行動しない神様前に立って走っていたが、しなくても良い苦労をするようになりました。″大きいものは幼い者を仕えと″
した神様の口約束は必ず叶えて負けるので、ヤコブは神様がお仕事を見守るべきでしだ。しかし、ヤコブは、長子が受ける福を受けるためて苛苛しました。神様の意味と摂理を信じて待ちきれず、焦って行った理由にしなくても良い苦労をするようになったのです。ヤコブの一生に関する記録で、もう一つ教訓を学ぶようになります。もしヤコブが時間と空間を超越して見ることができさえあったら、ヨーゼフが失われたときに、そんなに悲しく泣いて嘆息しなくてもいいはずです。
ヨーゼフは 13 年後にエジプトで首相の席に就くことになりました。ヨーゼフが生きていてエジプトの首相になったという知らせを聞いたヤコブは到底、その言葉が信じられませんでした。しかし、ヨセフが送った車を見ては信じるようになり、喜色満面になりました。これが人間の限界です。
しかし、信頼はこの限界を乗り越えにしてください。時間と空間を超越することにしてください。″これは全部私を有害とすることだ。″という言葉代わりに″これは全部私を利することだ。″と話せるようにしてください。ヤコブがもうちょっと前向きな信頼を持っていたらあれほど激しい悼んでいることと嘆息をしていなかったこと、過度ように深刻な心配をしていなかったのです。大事なのは、神様の属性と口約束に対する信頼の分量であり深くです。私たちはヤコブよりも有利な恩寵を着ています。族長たちとの偉人の生涯を通じた実験的結果を遺産としていただきました。さらに、イエス・キリストの死と復活と昇天が聖書通りに成就された以降に住んでいます。聖霊で充満して生きていくことはできる時代に住んでいます。もっと多くの約束が記録された聖書を持っています。ですので、私たちが神様を相変わらず愛しながら、先生の御言葉を追って生きている以上、何を会っても″これは全部私を利することだ。″というのが統合します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

口約束に対する信仰と聖徒のすばらしいさ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

神様の口約束に対する信仰が揺之不動の境地に至った人は聖徒の身分によく似合う ‘すばらしい聖徒’です. こんな境地に到達するためには多くの練達を経験して多くの演習をする過程が必要です. 今日の本文に登場する人物たちはこのような事に立派なしめしです. かれらがどんな信仰で ‘聖徒のすばらしいさ’を現わしたのかをよく見ます.

先に、サラに対して記録された部分をよく見ます.

本文の ヘブル人への手紙１１章 11 節と 12 節にこんなに記録されました. **“信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなさったかたは真実であると、信じていたからである。このようにして、ひとりの死んだと同様な人から、天の星のように、海べの数えがたい砂のように、おびただしい人が生れてきたのである。”**. アブラハムの妻サラは若かった時にも懐任することができなかったです. 年老けて断産したという話は年が老けた状態で不妊だったという意味です. ところで年が 90 になって息子を生みました. こんな奇蹟はサラの信仰によるものです. その信仰は神様の約束に対する信仰でした. サラは神様が多い子孫をくださると約束した言葉を信じました. そして天にある星と浜辺の限りない砂と同じく多く生育しました.
サラが 75 歳になった時どんなに処身したのかを創世記 16 章にこんなに記録しておきました. **“サライはアブラムに言った、「主はわたしに子をお授けになりません。どうぞ、わたしのつかえめの所におはいりください。彼女によってわたしは子をもつことになるでしょう」。アブラムはサライの言葉を聞きいれた。アブラムの妻サライはそのつかえめエジプトの女ハガルをとって、夫アブラムに妻として与えた。これはアブラムがカナンの地に十年住んだ後であった。”(創世記 16:2,3)**. そしてつかえめハガルが懐任するようになるとサラを無視して行動したわけに家庭に大きい風波が起きました. それから約 17 年後には つかえめハガルと彼が生んだイスマエルを追い出すようになる事が発生しました. アブラハムとサラの信仰が不足で行った結果です.
創世記 18 章にはサラが 99 歳になった時どんなに処身したのかを記録しておきました. 正午頃にアブラハムが天幕の入口に座ってから眺めたら三人が向こう側に立っていることを見て駆け付けて迎接しました. アブラハムが普段旅人をよくもてなしたが今度の場合は普段とは一際に嬉しく迎えて丹念にもてなしました. アブラハムが見る時普通の旅人みたいではないという感じを持ったようです. 事実は神様が天使たちを同行してアブラハムを訪問したのです.

旧約の時代には神様が天使や旅人の姿で人々にいらっしゃったし、しばらく間とどまりました. 旅人の姿でいらっしゃった神様と二りの天使は食べ物を食べた後にアブラハムに問うのを “あなたの妻サラがどこにあるのか?” したら “天幕にあります.” と答えました. すると神様がおっしゃるのを “私が来年この頃に必ずあなたに帰って来るでしょう. 見なさい, あなたの妻サラに息子がいるでしょう.” しました. サラがアブラハムの後にいる天幕門でその話を聞きました. サラが笑いながら言うのを “私が老衰したし私の主人も老けたから私に何の楽しさがあるか?” しました. その時エホバがおっしゃいました. “どうしてサラが笑いながら言うのを私が老けたがまことに子供を生みますか’ と言うのか? エホバに不可能な事があるのか? 決めた時すなわち, 来年今頃に私があなたに帰って来たらサラに息子がいるでしょう.”
アブラハムとサラ二人は盛んな子孫をくださるという神様の言葉を初に耳だった時がアブラハムの年 75 才数えたし当時サラは 65 才でした. 彼らは信じて期待を持ちました. ところで歳月がたちながらますます信仰が乗り気がなくなって行きました. 10 年が過ぎ去ると彼らは ‘神様がアブラハムの子孫をサラではない他の女人を通じてくださろうと思うことのようだ.’ と思いました. そしてサラが自分のつかえめを通じて子を生むようにアブラハムを説得したのです. 日増しに彼らの信仰はずっとなくなって神様が親しくおっしゃる言葉を聞いてからも当然しない言葉に思って笑ってしまいました. 不信することというより全然期待しないから笑いました.
ところでこの日にアブラハムもサラも信仰を完全に回復するようになりました. 神様との直接的な対話を通じて明らかに覚るようになりました. 初めて疑心は消えて確信が心に席を取りました. 神様が指示したとおりアブラムをアブラハムで, サレイをサラで名前を変えて呼びました. ‘アブラハム’は ‘多くの群れの父, 列国の父’という意味があります. ‘サラ’は “列国の母, 女将さん”という意味があります. 現在彼らに子がいないがないことをあることのように信仰と呼び始めたのです. 本文はまさにこの日からサラが持った信仰とその結果に対する記録です. **“信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなさったかたは真実であると、信じていたからである。このようにして、ひとりの死んだと同様な人から、天の星のように、海べの数えがたい砂のように、おびただしい人が生れてきたのである。”** 信仰を長続いて行くために神様の言葉を聞いてまた聞いてください. 信仰は聞いてから出ると聖書に記録されています. 現実状況に根拠したのではなく神様の口約束に根拠した信仰を持ってください. そしてないことをあることのように呼んでください. こんな行動が聖徒のすばらしいさです.

次は、アブラハムに対して記録された部分をよく見ます.

神様が試そうとアブラハムを呼びました. **“これらの事の後、神はアブラハムを試みて彼に言われた、「アブラハムよ」。彼は言った、「ここにおります」。神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」。”（ 創世記２２：１～２）**
青天家歌みたいな言葉でした.
アブラハムはその間練達を受けて彼の信仰が完全になっていました. そして神様に抗議しないで透かさず行動に移しました. 壇の上にイサクを向けてアブラハムが刀を取って殺そうと時に神様がその仕事を中断させました. そして神様が予備なさった雄羊で燔祭を差し上げるようにしました.
エホバの天使がアブラハムに言いました. **“「主は言われた、『わたしは自分をさして誓う。あなたがこの事をし、あなたの子、あなたのひとり子をも惜しまなかったので、わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである』」。”(創世記 22:16～18)**.

“信仰によって、アブラハムは、試錬を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。この子については、「イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるであろう」と言われていたのであった。彼は、神が死人の中から人をよみがえらせる力がある、と信じていたのである。だから彼は、いわば、イサクを生きかえして渡されたわけである。”（ ヘブル人への手紙 11:17～19)と言いました. 燔祭はお供えを完全に全体をすべて燃やしてささげます. それでも神様が約束した言葉を成さなければならないから灰の中にもイサクを起きると思ったのです. アブラハムの処身はまことにすてきです. 皆さんもこんなすばらしいを見せながら生きて行ってください. 神様の言葉を信じたらその言葉をつかんでどんな状況に処してもその信仰どおり思って言うように願いします.

終りに、イサクとヤゴブとヨセフに対して記録された部分をよく見ます.

“信仰によって、イサクは、きたるべきことについて、ヤコブとエサウとを祝福した。信仰によって、ヤコブは死のまぎわに、ヨセフの子らをひとりびとり祝福し、そしてそのつえのかしらによりかかって礼拝した。信仰によって、ヨセフはその臨終に、イスラエルの子らの出て行くことを思い、自分の骨のことについてさしずした。”(ヘブル人への手紙 11:20～22) しました. 聖徒の皆さんは聖書に記録された神様の口約束に根拠して祝福する仕事を積極的に行ってください. 神様の口約束に根拠して祝福することは信仰の行為です. 聖徒らしく行う事です. すてきな事です. サラのように, アブラハムのように神様の言葉をずっと聞いてください. そして揺之不動の信仰を持つようにしてください. 現実状況より言葉に根拠した信仰を持って、ないことをあることのように呼ぶのが聖徒のすばらしいさです. イサクとヤゴブとヨセフは神様の口約束が自分の時代には成り立たないと言ってもいつかは必ず成就することをすんごうも疑わなかったです.

皆さんはイエスキリストの来臨と聖徒たちの復活が必ず成り立つことを信じますか?それなら皆さんが信じる事実を他の人々に熱心に知らせるのが聖徒らしく行うのです. その日を待ちこがれて所望の中で楽しく暮すことが聖徒らしく行うのです.このようなものが聖徒のすばらしいさです. サラ, アブラハム, イサク, ヤゴブ, ヨセフのように神様の口約束を固く信じて、ないことをあることのように呼ぶすばらしいと約束の言葉に基づいて祝福するすばらしいを見せる聖徒になるように願いします.